

議事概要		司会進行		記録者	
		牛久市 経営企画部 政策企画課長補佐 淀川		牛久市 経営企画部 政策企画課 主任 本谷	
1. 会 議 名		令和6年度 第2回牛久市総合計画審議会			
2. 開催日時		令和6年10月16日（水） 10時30分～12時00分		開催場所	牛久市役所 本庁舎4階 第3会議室
3. 委 員 （敬称略）		出席者 （◎：会長）	氏名	所属・職名	
			◎岡本 直久 堀 賢介 浅野 明宏 大橋 澄子 野口 知重 藤田 文男 八木橋 晴美 福田 進久 廣川 智一 種子田 孝子 鷹羽 伸一	筑波大学システム情報系 教授 牛久市行政不服審査会 会長 牛久市環境審議会 委員 牛久市区長会 会長 牛久市商工会 会長 牛久市近代農業促進協議会 会長 牛久市教育委員 牛久市障害者連合会 会長 民生委員児童委員連絡協議会 会長 牛久市文化協会 会長 牛久市 副市長	
4. 議題及び会議の公開又は非公開の別		公開		傍聴人の数	0人
5. 事務局		牛久市 経営企画部 政策企画課			
6. 次 第		1. 開会 2. 協議事項 （1）各種実施結果報告について ①団体ヒアリングとりまとめ報告 ②市民ワークショップ実施報告 （2）総合計画の策定に向けた課題の整理 （3）牛久市人口ビジョン（案） 3. 閉会			
7. 議事内容		別紙参照			

別紙 議事内容

議事（1）各種実施結果報告について

（①団体ヒアリングとりまとめ報告、②市民ワークショップ実施報告）

発言者	内容
事務局	資料に基づき、各種実施結果報告について説明。
会長	ありがとうございました。前回会議から今回までの間で行っていただいた、団体ヒアリングと市民ワークショップで吸い上げられた意見についてご紹介いただきました。詳しく聞きたい、あるいは、ネガティブかポジティブか意味を確認したいなど、どんなご意見でも構いません。ご紹介いただいたことの中で聞きたいことがあればご発言いただければと思います。
委員	資料1の2ページの教育文化という所の欄の真ん中、「地域活動の人材不足」という項目の所に、「文化活動団体約60団体」とあります。この約60団体というのは文化協会に加盟している団体の数ということになります。牛久市の文化活動団体の総数が60団体ではなく、文化協会に加盟して活動している団体数が約60団体という事です。実は、牛久市の中にも文化協会に所属していない団体はかなりあり、全部は把握できていない状況です。
会長	はい、わかりました。活動団体総数ではないという事ですね。
委員	文化協会に加盟している団体が約60団体ということです。
会長	はい。ありがとうございます。
委員	団体ヒアリングで挙がっている項目の中で、公共交通に関係する項目がいくつか提起されていますが、自分の感覚として、タクシーがとても少なくて利用しづらくなっていると感じています。タクシー乗り場に行ってもタクシーが全然なくて大変だと感じています。社会福祉協議会が取り組んでいる移送サービスや、うしタクを利用したりしますが、どうしてもタクシー利用が必要な時にタクシーがつかまらない。ここ1年くらいはそのような状況になっているのですが、市としてはどうお考えになっているのでしょうか。
事務局	4月からドライバーの働き方改革の関連法が本格施行されたことにより、ドライバー不足の影響が顕著になっているように思います。さらには、牛久市におけるタクシー会社が1社廃業したため、現在は2社で営業しているなどの理由がございます。実際にタクシーの台数も減っているということは間違いのない所で、そのような課題も素案の中に取り込んでいきたいと思います。ありがとうございました。
委員	よろしくお願いします。
会長	事務局から補足がありますか。
事務局	はい。ご意見ありがとうございます。実は、ヒアリングや市民ワークショップの中でも公共交通についてのご意見がありました。委員がおっしゃった通り、皆様が直接受けるサービスということで、肌を感じやすいサービスかと思っております。 政策企画課の中に公共交通対策室を持っており、別途、地域公共交通計画の策定に取り組んでいる所でございます。今、説明があった通り運転手不足もございますが、牛久市はタクシーの営業所がそれほど多くない地域でございます。また、1社廃業に向けた動きが

	あるとも聞いています。そのような中、市内の駅に乗り入れているタクシーの数が足りなくならないように、市外の業者にお声掛けをして、何台か来ていただいている状況でございます。とはいえ、市民の方がすぐに乗れるような十分な状況かという点、足りない部分もあるのかなと感じている所です。 地域公共交通としては民間のバス、タクシーをはじめ、市のコミュニティバスやうしタク、それからボランティア移送サービス、もしくは病院の送迎バス、スクールバスなどの乗り物を組み合わせて、市民の皆様の移動が成り立つように考えている所でございます。この総合計画の中でも、皆様の移動の交通利便性を良くしていくという内容は位置付けることを考えております。位置付けた上で、地域公共交通計画において具体的に考えていきたいと思っております。
委員	関連して、かっぱ号（バス）の利用者の状況はどのような感じでしょうか。過去のアンケートや調査結果などをみると利用者は増加傾向であると伺っています。私自身、ひたち野東に住んでおり、家の前をかっぱ号が通るところの見た目も2、3人しか乗っていないように見えました。市全体でみると乗客はたくさんいらっしゃるのでしょうか。
事務局	ご質問ありがとうございます。かっぱ号は全部で9ルートありまして、基本的には駅を中心にグルッと回るような路線で、ほとんどが市街地の中を回るような形になっています。おっしゃった通り、ルートによっては利用者の少ない地域もございます。特に、ひたち野ルートが顕著に少なくなっています。これは人がいる、いないというよりかは人口構成の影響だと思われます。公共交通をお使いになられている方のほとんどが、高齢の方が中心で、移動に困っている方となっています。
委員	その辺の対策を考えていらっしゃいますか。
事務局	運転手不足の影響を受けて、今年度ははじめにかっぱ号の減便もした所です。効率良く回せるように現在も検討をしております。
委員	ドライバー不足に関して、今よく聞かれるライドシェアに関する取組は、牛久市ではどのように考えていらっしゃるのでしょうか。
事務局	日本全国で昨今広がり始めている日本版ライドシェアは、観光地や都心での取組が多く、特にタクシー事業者の管轄の中で、特に、人の移動が多い地域、タクシーでの移動手段が足りない地域で取り組まれているかと思っております。それとは別に、牛久市では自治体が行う公共ライドシェアの取組を来年1月からスタートしようと動いています。牛久市だけでなく、つくば市、土浦市、下妻市の4市で連携をして取り組むことを考えています。 ドライバーを確保するという事業と、公共ライドシェアを実際に市内で走らせるという事業の2本立てで対策を考えています。うしタクについては認知度も上がったことにより、利用者も増え、逆に利用をお断りする件数が増えている状況です。うしタクの運行台数を増やせばよかったのですが、運転手不足等の関係でやはり難しい状況でした。ですので、新たな公共ライドシェアの展開を図っていきます。
委員	ありがとうございます。私も事前の団体ヒアリングに参加させていただいておりました。高齢者が増えるにしたがって、ゴミ集積所までゴミを運ぶことが大変という話題が出てきたかと思っております。ゴミ集積場の配置場所や、ゴミ集積場の数などの問題がいくつか出

	ていたような気がします、資料を見るとゴミ問題に関する記述が無さそうです。 あと、ヒアリングで印象に残っていることは、昨今の夏の暑さです。気温上昇に伴って高齢者が非常に生きにくくなっているという話がありました。この先、高齢者が増えてくるとそのような問題がより深刻になってくるのではないかと考えているのですが、資料にはあまり取り上げられていないようでしたので、質問をさせていただきました。分野でみると生活基盤や、環境あたりになるかと思います。
事務局	ヒアリングではクーリングシェルターなどのお話は出ていたかと思います。それに対しては、市でも公共施設を開放して、涼み処として運用しています。加えて、行政区へお願いして区民会館などでも涼めるように開放してもらうという取組も行っております。 ゴミの収集所に関しては廃棄物対策課の担当になりますが、なかなか新しいゴミ集積場を増やすということは難しいと聞いております。
委員	少しよろしいでしょうか。行政区の間でもそのようなゴミ問題は話題に出ております。ですが、地区社協あるいは行政区によっては、ゴミ出し支援が必要ですかと高齢者にお聞きして、必要であれば朝8時までに玄関先に出してもらい、ご近所の方で協力者を募って、ゴミ集積場に持って行ってもらおうという取組をしている地域もあります。私の住んでいる行政区でも同じ取組がありましたが、希望する方はいらっしゃいませんでした。参考にしていただければと思います。
事務局	ありがとうございます。ゴミ処理のご意見について、ヒアリングの結果の中での表現などは改めて見直しをさせていただこうと思います。決して資料に書いていないからといって、ご意見を落としているということではございません。ゴミ捨ての問題は高齢化社会において、社会全体での対応が必要かと思います。今回、次期総合計画を仕上げていく中で、バラバラに高齢化社会に対応した取組を入れていくと、取組自体が細分化されてしまうため、大枠で高齢化社会に対応するという考え方をしっかり持ったうえで、対応していくことが良いかと思います。いただいたご意見は少なからず集約して、反映したいと思います。この後の議題で課題の整理をまとめているので、改めてそちらでご説明をさせていただきます。以上です。
会長	ありがとうございます。委員がおっしゃったような、行政区が横並びになって情報共有ができているかという事は、総合計画の中を書くべきことですね。行政運営の分野で、横の繋がりの強化や情報の共有という項目が大事になるかと思います。私の居住地では、自治会の情報はそこだけで留まって、内部だけで議論をしている印象があります。少しお隣に行くと全然違う発想を持っていたりするので、情報交換ができる組織も大事だと思います。
委員	今の情報共有という意味で、少し私が聞いた話を申し上げます。先程のゴミ収集に関して、市ではふれあい訪問収集を行っていますよね。前に、どのような取組か伺う機会があり、実際にその仕組を利用させていただいている世帯がどのくらいあるのかと質問すると、市全体で数世帯から数十世帯程度と仰っていました。あまりにも利用の条件が厳しくて、利用のハードルが高すぎるのではないかという声がありました。つまり、せっかく取り組んでいたとしても、あまり功を奏していないということであれば、一度ハードルを下

	げるような努力をしていただくことが必要かと思います。以上です。
事務局	ありがとうございます。現在の審査基準は介護保険や障害者手帳の認定状況等、日常生活における介助の状況、集積場の位置、歩行の可否及び転倒リスクというような基準になっていますが、原則として、家族が市内に住んでいることや、入院、転出等で長く家を空ける予定がある、車の運転もしくは他の手段等で外出ができる、他のゴミ出し支援サービス等の利用ができる場合は対象外となります。家族が市内に住んでいると利用できないとなると、確かにハードルは高いかと思われます。ご意見については担当課の方と情報の共有をさせていただきたいと思います。
委員	ゴミの収集に関してですが、先程会長がおっしゃったように、地区社協の役員さんが行政区の区長さんになっているところもあるので、横の連携は取れているかと思います。ですが、再度区長会などで課題を投げかけて、取組を促すということはできるかと思います。
会長	ありがとうございます。その他、ご質問等ございますか。 最初に委員がご指摘されたタクシーがつかまらないという話で関連すると、つくば市でも実はつくばセンターという場所のタクシー乗り場になかなかタクシーが来ないということが最近話題になりました。なぜかという、皆さんアプリでタクシーを呼んでしまって、タクシー乗り場まで行かなくても、目の前にタクシーが来て、簡単に乗ってしまうからのようです。ひょっとしたら牛久でもタクシー配車アプリで呼んだ方がつかまりやすいのかもしれないなと思いましたが、いかがですか。
委員	新しく乗り入れてきたタクシー会社はアプリに対応しているということで、アプリ自体は入っていますが、まだ呼んでみたことはないです。ただ、スマートフォンでやるとなると、高齢者や障がい者の方たちにとっては、やはりハードルが高いのではないかと心配もしております。まだ使っていないので、ぜひ試してみたいと思っております。ありがとうございます。
会長	市でもスマホの使い方教室などは定期的に行われているのではないかと思いますのですが、どうでしょうか。交通に限らず、高齢者の皆さんがスマホを使って便利に過ごしてもらうための取組は既にあると思いますが。
委員	牛久市ではやっていないと思います。通信事業者ではやっていらっしゃるということで、そこへ行って学ぶことはできると思います。
会長	ありがとうございます。それでは、次の事項に移りたいと思います。

議事（2）総合計画の策定に向けた課題の整理

発言者	内容
事務局	資料に基づき、基礎的調査報告について説明。
会長	ありがとうございました。一番後ろの16ページの表を見ながらのご質問をいただけると、全体が見渡せると思った次第です。どこからでも構わないのですが、ご質問、ご指摘いただければと思います。いかがでしょうか。
委員	では質問させていただきます。各項目でそれぞれ指標達成度がありますが、その指標自体どんなものかわからないとAからEの評価基準が見えにくいと思いました。あと、担当課評価は、担当課の職員の方がどのくらい達成できているかという自己評価のような指標ということでしょうか。
事務局	はい、これらの指標につきましては第1回審議会で説明をしており、総合計画の参照指標になっているものです。例えば、第1章の第1節「無理なく、ほどよく助け合える地域づくり」ですと、「ボランティア団体者数」と「地域の中で助け合いが行われていると感じる市民の割合」という指標があります。そういった指標を第1回審議会のところから抜き出してまとめております。
委員	なるほど。わかりました。ありがとうございます。
会長	指標達成度と担当課評価にギャップが生じるのは何故ですか。
事務局	指標達成度は絶対的な数値であり、アウトカムになります。それに対して、担当課の評価は、担当課が取組を十分行ったかどうか定性的に判断しているところもあるために、ギャップが一部ございます。 例えば、人口1万人当たりの指数などは数字として絶対的なものがございますので、担当課のほうでいくら頑張っても指標達成度が上がっていないという所もございます。ですので、3ページの1-5「すべての障がい者が個性や特性を発揮できる地域づくり」に関しては、担当課はBと評価していますが、指標達成度としてはCになっているといったギャップがみられます。 ですので、課題を踏まえた改定方針が、「指標達成度が低いため、結果にむすびつく取組の見直しを行う」ということになっています。
会長	指標で設定していることと、行政が向かっている方向性が間違っているからギャップが生まれるのではないかと思います。そこは反省材料として、第7章の行政運営で受けることができるのではないかと思います。可能であれば検討してみてください。
委員	すみません。関連しているところだと、指標達成度がEとなっているところが2か所あります。第4章の4-5と、第7章の7-3です。この指標達成度がEとなっているのは、そもそもの指標設定が適切ではなかったということで、指標の見直しを行うとなっていますが、この評価が本当に正しいのかどうか気になります。 あとは、4-5の産官学連携や、7-3の広域行政や民間への委託・連携等は同じ議論になるかと思いますが、今後人口が減少していく中で、必ず取り組むべき内容だと思います。そのような中で、重点的に取り組むべき課題の中に2つの項目が含まれていないということも、少しいかがなものかと感じる所ではあります。自治体間の連携が非常に難しい

	ことというのはよく理解はしているのですが、これから大規模な施設の建て替え等を予定しているということであれば、広域連携などに取り組んでいただきたいと思います。
事務局	まず、4-5「産官学連携による地域の将来を担う人材づくり」の指標については、「産官学連携や政策形成に参加した高等専門学校、大学生の数」となっており、こちら指標が1つしかないために、その数字が良くなかったということが、評価に直結しています。指標についてはまた検討していきたいと思います。 7-3「近隣市町村や民間との連携による時代にあったサービスづくり」の指標については、「広域行政民間委託の事例数」ということで、令和5年度まで実績が少なかったという所もあり、達成度はEとなっています。その指標についても見直ししながら進めたいと思います。
委員	先程おっしゃられた公共ライドシェアを4市で取り組むということも、広い意味では近隣市町村の連携だと思います。少し前につくば市の陸上競技場を作るという時にも、そもそも市として陸上競技場を持つことが妥当なのかどうか議論になりました。その時に話に出てきたのは、隣の牛久市や他の自治体と一緒に1カ所だけ建てて、それを共用で利用すれば良いではないかということでした。なので、市内でいくつも拠点が必要な施設があれば、複数の市で共有する施設もあるという考え方はとても効率的だと思います。指標に関しては確かに取組がなく0でしたという結果はわかりましたが、取組は引き続き進めていただきたいと思います。
事務局	承知いたしました。ありがとうございました。
委員	16ページの施策の大綱のところで、しごと分野における課題の分析結果の4項目目「企業誘致による雇用の創出」とありますが、企業誘致の前に、「ゼロカーボンシティを考慮した」という言葉を入れてもらいたいと思います。せっかくゼロカーボンシティ宣言をしながら、どんな企業でも良いから来てくださいとなると、矛盾が生じてしまうかと思います。 また、資料の中ではゼロカーボンシティとバイオマスタウン構想を同等に扱っていますが、ゼロカーボンシティの中にバイオマスタウン構想が入ってくるかと思います。それから、環境分野で循環型社会とありますが、こちらは単なる循環型社会ではなく、「持続可能な循環型社会」としていただきたいです。関連して、7ページの課題を踏まえた改定方針のところについても、「ゼロカーボンシティを考慮した企業誘致」としていただきたいと思います。つまり、企業誘致の前にすべて「ゼロカーボンシティを考慮した」ということを加えていただきたいと思います。 つづく、7ページの重点的に取り組むべき事項で、「資源循環型社会(ゼロカーボンシティ)の実現に向けた取組の充実」とありますが、ゼロカーボンシティの中にはバイオマスタウン構想が含まれると思います。 それからこの前、新聞記事で空き地における太陽光パネルの設置と有効活用を行う事例を見かけました。9月18日の読売新聞の脱炭素エネルギー・地方が主役ということで、千葉県匝瑳市ではソーラーシェアリングという事業をやっているようです。パネルの

	幅が少し狭い特注のソーラーパネルを用いて、その下で大豆を栽培するなどの有効活用をしているようです。他にもジュースを作ったり、ワインを作ったりなど空き地を利用したソーラーシェアリングで人口増加、税収増加を図っているという記事がありました。ですので、ゼロカーボンシティやバイオマスタウン構想、具体的には空き地や休耕地を活用したソーラーシェアリング事業というようなことも考えていただければ良いなと思っております。
副会長	今の話に少し関係して、総合計画のまとめ方についてです。資料では、取組を分野別にまとめているかと思いますが、あまりに細かく分野別に分けているために、時代の大きな流れがわかりづらくなっていると思います。先程からお話に出ている、高齢化社会の到来やカーボンニュートラルの話など、そういった大きな方向性で横串を刺すまとめ方もできると思いますので、検討していただきたいです。 高齢化のお話は、福祉の分野だけではなくゴミ捨ての話にも関係しますし、教育文化、生涯学習、あるいは仕事などでも、高齢化に対応した仕事の間づくりというようにあらゆる分野に関わってくると思います。ゼロカーボンシティなどの環境もちろん同じです。実際の世の中は複層的ですので、時代の流れを捉えた書き方にあわせて検討していただければありがたいと思います。
事務局	承知しました。今おっしゃった文言の整理については、担当部署と共有しながら整理させていただきたいと思います。副会長からありましたように、社会の潮流は踏まえたうえで今回の会議資料の中でもまとめている所ですが、各会議の開催ごとに資料が分かれてしまっているため、こういった背景から出てきている内容なのかが分かるような記載の仕方が必要だと思いました。先程の指標の話もそうですが、どうしても切り取りの資料になってしまったので、今後は丁寧にまとめたいと思います。
委員	素案のサンプルを見ていて気になったことになります。第1回の会議の時にも質問をしましたが、目指す方向の矢印の意味は何でしょうか。あの時は、結果が悪いために向上を目指す意味で上矢印としている、という回答があったかと思います。今回の資料でも目指す方向の欄があり、これは普通に考えれば上向きになるのが当然であって、せいぜい横ばいが想定されるかと思います。逆に下向きの矢印というのはあり得ないと思いますので、この矢印を載せる意味はあるのでしょうか。
事務局	こちらはまだ決まってはいないのですが、現行の計画の中でのイメージで作成しております。また、上向き下向きの話では、数値や割合が下がったほうが良い指標、つまり下向きの指標はあるということ、以前もお話ししたかと思います。
委員	下向きの矢印もあるんですね。
会長	目標値から下げる指標、例えばCO ₂ 削減なども何%減と書くかと思います。
委員	そういう意味では下げる指標も出てくるのですね。わかりました。そのままで結構です。
会長	先程、委員がご指摘されて、副会長もご指摘されていましたが、他の分野と見比べた時に書かれていない要素があるのかなと思います。 例えば、高齢者の問題に関して、歩きやすいまちづくりが大事だと思いますが、その

	ような内容は生活基盤の所でも触れていませんでした。課題としての共通認識はいくつかあって、それは必ず心がけておかないと忘れてしまいそうな気がします。 先ほどのゼロカーボンが大事だというお話や、私は子育て世代をどう大事にしていくなか、子育てをしやすくするためにはどうすれば良いかということを、前面に押し出して欲しいと思います。 皆さんそれぞれの立場で、それぞれ大事だと考える分野があるかと思います。先ほど、横串という言葉がありましたが、ぜひそれを意識して次回の資料を作っていただければと思います。 それと、非常に細かい話で恐縮なのですが、生活基盤分野の中に中心市街地活性化というキーワードがあります。このキーワードは日本各地で重要だと出始めてもう30年ほどになりますが、牛久市では中心市街地活性化は必要でしょうか。今一度考えてもらいたいです。中心市街地を活性化すれば賑わいが戻ってくるという考えは、ひょっとしたら幻想で、牛久はもう中心市街地がなくても、賑わっていると考えられるのではないのでしょうか。そう考えるならば、他の方策があっても良いのではないかと思います。そこまで中心市街地にこだわらなければいけないのでしょうか。
事務局	中心市街地活性化については、市民満足度調査等のアンケートの結果を踏まえても、大事にしなくてはいけないと考えております。特に、牛久駅周辺には昔の賑やかな時のイメージを強く持っている方が多数おり、その方々にとっては駅前が寂しくなってしまったために、賑わいを戻してほしいというような意見が強く届いております。ですので、中心市街地活性化は必要な言葉かと思っております。
会長	東口、西口ですか？
事務局	東西ともにですが、西側が先に栄えて、東側が遅れて市街化したという経緯があります。現時点では、どうしてもひたち野うしくの賑わいと比べると東西共に静かになってしまったと思います。
会長	ひたち野うしくでも、駅前が賑わっている訳ではないですよ。
事務局	そうですね。新しいスーパーやショッピングセンターができて、若い人がたくさんいるという所が賑わいとなっていると思います。
委員	今の賑わいの話に関連して、私は牛久シャトーが非常に大事な資源だと思っています。シャトーと駅との動線、そこを結んだ沿道の活性化ということに、個人的にはぜひ取り組んでいただきたいと思っています。
会長	賑わいではないですけど、雇用の視点で牛久シャトーの話が出ていると思うのですが、はたして牛久シャトーに雇用が生まれたとして、どのくらい効果があるか。あの規模の面積ではあまり雇用効果はないのではないかと思います。何を狙っているのかがあまり伝わってこないです。 もちろん牛久シャトーが活性化して、その周辺にも新しい商業、商店が張り付いてというような、昔ながらの城下町的な街並みに戻していくという構想があれば、具体的にそういう絵を描けば良いとは思いますが。阿見のアウトレットを見ても分かりますが、あれだけ広大な敷地にあれだけの人が働いていて、消費する人達がきて、その人達が阿見に住んでく

	れたことで人口が5万人を超えたのだと思います。構想があればよいですが、シャトーでそれを実現できるのか疑問ではあります。
副会長	雇用の文脈で書いてあるのでそういう受け止めになってしまうのですが、牛久シャトーは要するに市のシンボルですよね。そういう視点で賑わってほしいということだと思います。
委員	そういう意味です。私も雇用とは結びつけて考えていませんでした。
副会長	それは皆さんそういう思いですよね。
委員	牛久駅近くのビルの中も以前から比べると少し活気がないと思います。牛久駅全体の活性化もそうですが、誰もが牛久シャトーへ行こうとなるような、そういう市のシンボルになってほしいと市民は希望していると思います。
会長	牛久シャトーの位置づけを明確にすることが大事だと思います。何でもかんでも牛久シャトーではないと思います。

議事（3）牛久市人口ビジョン（案）

発言者	内容
事務局	資料に基づき、牛久市人口ビジョンの検証について説明。
会長	ご質問、ご意見ございますか。牛久市の特徴は20代、30代の女性が市から出ていってしまうという所にあると思います。その課題に触れられることなく数字が書かれているように思えるので、対策などは具体的にないのでしょうか。
事務局	総合計画の施策で記載したいと思っております。
会長	総合計画のどこですか？
事務局	総合計画の基本計画には、600個程の具体的な取組があります。取組全体をお示したうえで、人口ビジョンの対策に直結する取組みとして整理して示すようにしたいと思っています。
会長	それは良いのですが、その前に20代、30代の女性が出ていってしまう原因がどこにあるのかを明確に示さないと解決策を考えられないと思います。職場がないなど、何らかの調査が必要かと思いますがいかがでしょうか。
事務局	おっしゃる通り、人口ビジョンの見直しにあたっては何が課題なのか整理しなくてはいけない所だと思います。当然この資料を仕上げるにあたり、その点は整理したうえで進めているのですが、資料に表現されていない部分や、分かりづらい部分があるのかと思います。最終的な人口ビジョンとして、表現の仕方や取りまとめの仕方を検討していきたいと思っています。ありがとうございます。
委員	1つよろしいですか。牛久市の人口のビジョンは、提示いただいた案で良いと思うのですが、日本全体の人口は2060年では何%くらい減ってしまうのでしょうか。日本全体の傾向と比べた時に、牛久市の数字は妥当なのかどうか、気になりました。
事務局	日本全国をみても当然、人口は減っていきます。最終的には8,000万人程になってしまうとされています。牛久市においても、社人研の推計では、2060年で7万4,0

	00人程度になってしまう推計が示されています。そうならないために、市が取り組む施策を考慮した目標人口をお示しさせていただいた案でございます。 前回策定時は7年ほど前で、地方創生の動きが出てきた頃に立てた目標となっています。当時は、ひたち野などへの流入があって、人口が増加している時期に策定したということもあり、一旦は人口が上昇するようなカーブを想定しておりました。ですが、社人研の推計も大きく変わってきて、今後は減少していくという推計が示されています。 幸い減少率をみると、他の市町村に比べて牛久市はだいぶ有利でございます。茨城県の県南地域であること、それから鉄道沿いにあることなどが要因になっています。 ですから、県南地域でも常磐線沿いとTX沿線にある市町村の人口減少率はとても低く、推計上でも減りづらくなっています。鉄道沿線や都心から離れるにしたがって、減少率も大きくなるという傾向が茨城県内にはあります。 鉄道が通っていること、交通のアクセスが良いこと、ベッドタウンとして既に住宅の基盤が出来上がっていることは牛久市の大きな強みだと思います。転入転出による社会増減は、毎年増加を続けています。委員がおっしゃられたように、他自治体や全国的な所も比較対象として、牛久市はどの位置にあるのか見定めながら、人口ビジョンをまとめていきたいと思います。よろしくお願いいたします。
委員	はい。ありがとうございます。
会長	本年度作らなければいけない総合計画に対して、検討してくださいとは言いませんが、実際に将来人口が8万1,000人になった時に、行政としてどれくらい身動きが取れるのでしょうか。今住んでいる所にそのまま住み続けられるかということをシミュレーションしたほうが本当は良いと思います。 要は、人口減少はもう避けられないと決めて、ここにしか住んではいけませんと場所を制限する。そうしないと、下水道のメンテナンスや道路のメンテナンスは、市の財源がなければ、できなくなってしまうかもしれません。 そういう街にならざるを得なくなってしまうということを考えて、次回の総合計画では考えていただきたいと思います。そういう宿題を残しておいたほうが良いと思った次第です。 あともう1つ、ゼロカーボンという話題がありましたが、温暖化は確実に進みます。今年は暑かったと言うけれど、来年もっと暑いです。そうすると、街の中にきちんと緑を育てることがすごく大事で、日陰を作るようにしましょう。先程もゴミ出しが大変だとおっしゃっていましたが、日陰がないと街中を歩けません。ぜひ次の総合計画は、マイナーチェンジではなく、根本からチェンジすることを考えていただきたいと思います。ぜひよろしくお願いします。
委員	先程少し説明した、脱炭素エネルギーの新聞記事についてです。千葉県匝瑳市でソーラーシェアリングに取り組んでいるのですが、匝瑳市は九十九里浜の近くに位置し、昔は消滅可能性都市でした。何年か前にソーラーシェアリング事業部を展開して、電力と食糧を確保しながら、税収も確保できるということで、研究者の関心を引いているようです。 例えば牛久市でも奥野地区の方は空き地が多く、農業等も盛んなので、そういう所を利

	用してみるのも良いと思います。食糧とエネルギー、それから地域の経済の活性化にも繋がることで、人口減少も食い止める。きちんと収入も増えているようです。年間で一般家庭2,000世帯の発電ができ、売電等の収入は3億円、うち1億円が税金や雇用などの形で地元へ落ちるとのことです。消滅可能性都市の自治体の1つがエネルギーを売って地域が潤うということで、持続可能で環境に配慮した事業者も増えてきています。こういった事例もあるので、牛久市として地の利を活かした事業を考えてみても良いのかなと思いました。個人的な意見としては、奥野地区にソーラーシェアリングを展開したら、環境が今よりは改善するのかなと思っています。
会長	活発なご意見をいただきありがとうございました。進行を事務局にお戻ししたいと思います。皆様どうもありがとうございました。
事務局	会長、ありがとうございました。

以上